

4. GS/BS 別にみた直近時点における就業以外の状況

図表 34～図表 44 は直近時点における就業以外の状況を GS/BS 別に調べた結果であり、その概要は次のとおりである。

①標準報酬月額は、男性非正規の場合、正規のその 60～75%程度であり、かつ GS グループの方が BS グループより高い。一方、女性非正規の場合、正規のその 70～80%であり、かつ女性正規のそれは男性正規のその 60%強である。ただ、GS/BS 間の格差はそれほど大きくない。

②子供数は男性の場合、GS の正規 45～49 歳層のみ 2 人が多数派である。非正規グループは「子供なし」が最も多い。一方、女性の場合、GS グループでも専業主婦以外では「子供なし」が多数派となっている（45～49 歳層も）。専業主婦の場合、35 歳以上になると、子供 2 人が最多となる。

③結婚者の割合は一般に GS グループの方が BS グループより高い。また、専業主婦を含めると、女性の方が男性より結婚者の割合は高くなる。加齢により結婚者の割合は総じて上昇するものの、女性 GS グループで現在就業中の人には、加齢効果は認められない。さらに、現在就業中の人に限ると、年齢階層別に見た正規の結婚者割合は男性の方が女性より高い。加えて男性の結婚者割合は正規の方が非正規より高い一方、女性のそれは逆に正規の方が非正規より低い。なお、現在就業中の人の離婚率は女性の方が男性より高く、女性のそれは総じて正規の方が非正規より高い。

④2 年以内に解雇される可能性は、総じて非正規の方が正規より大きく、BS グループの方が GS グループより小さい。なお、非正規に限定すると、解雇される可能性は男性の方が女性より大きい。

⑤2 年以内の転職は年齢が若いほど計画中の人が多く、また非正規の方が正規より割合が高い。さらに、正規の場合、総じて BS の方が GS より割合が高い。

⑥5 年以内の子づくりは加齢とともに計画・実施中の人の割合が低下するものの、男性 BS グループで非正規の場合、その割合が総じて低く、かつ 45 歳前まで若干ながら上昇する。

⑦「親の世代より豊かになれない」と思っている人が総じて多数を占めている（ほぼ 4 割超）。一方、「親の世代より豊かになることができる」と回答した人の割合は、正規の男性でも 15～30%強にとどまり、かつ、世代が若いほど低い（なお、回答には「分からない」という選択肢もある）。

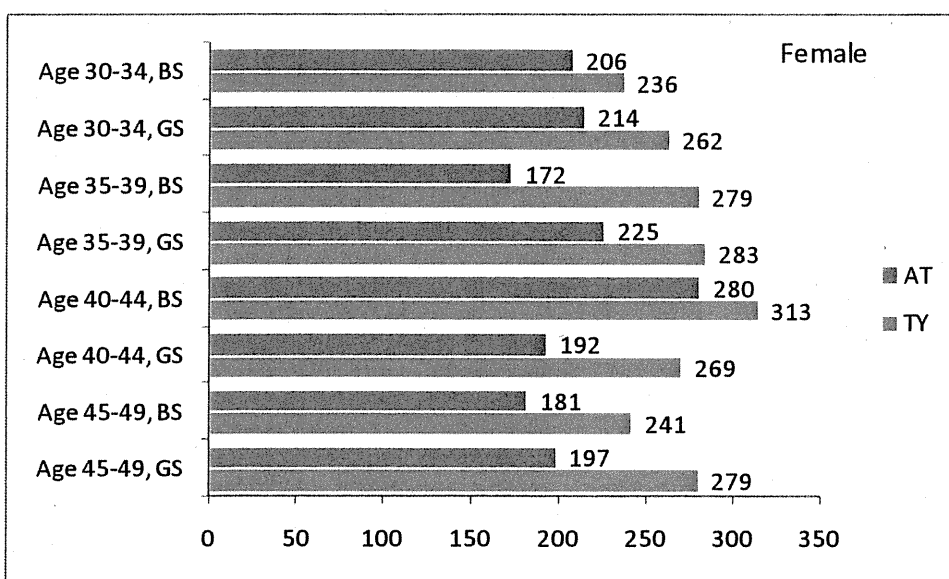
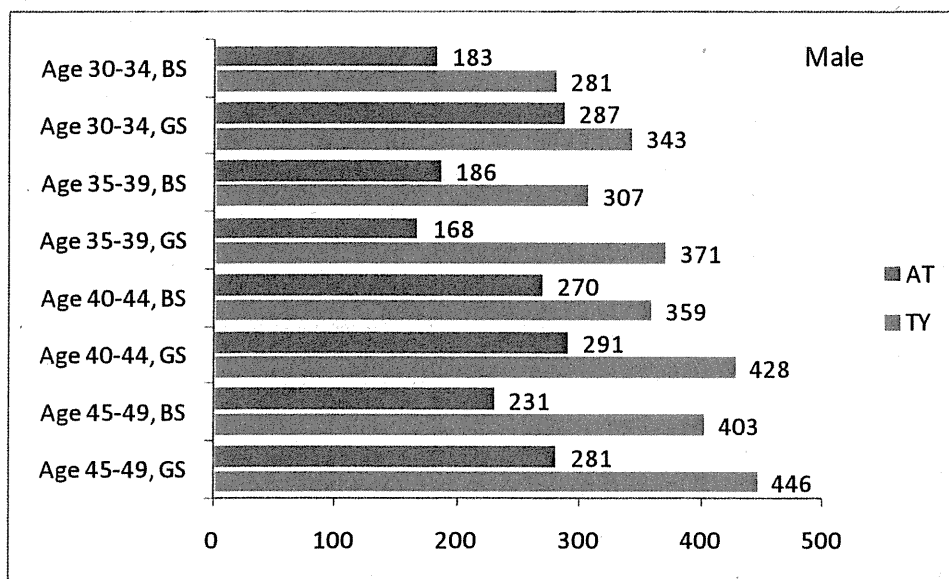
⑧10 年後の生活水準はアップしないと思う人が多数派であり、生活水準が向上すると思っている人は 30 歳代でも 25%以下しかいない。

⑨本人の金融資産額は総じて GS グループの方が BS グループより多い。ただし、GS グループでも現在、非正規の人の金融資産額は相対的に少ない（特に 30 歳代）。なお、金融資産保有額は加齢に伴って一般に増大する。

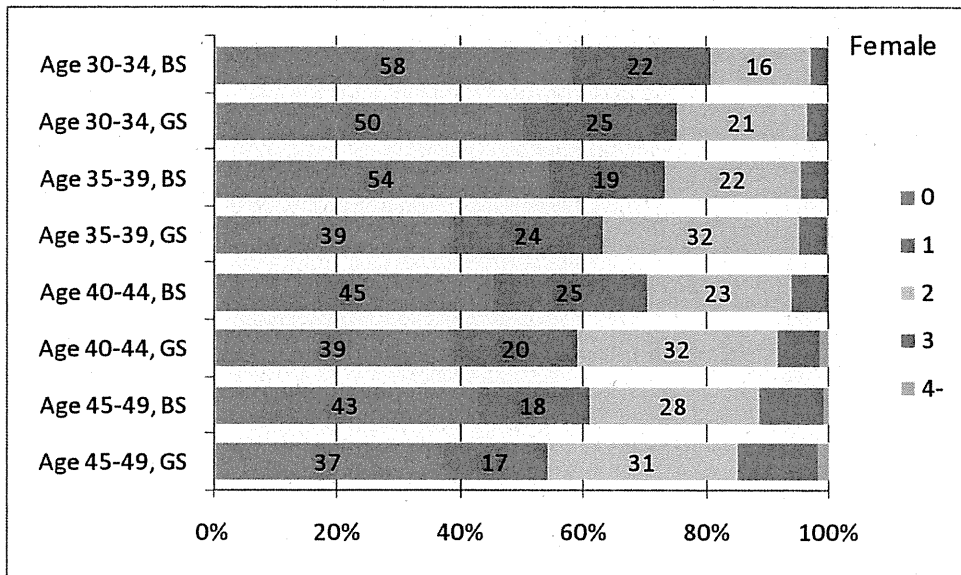
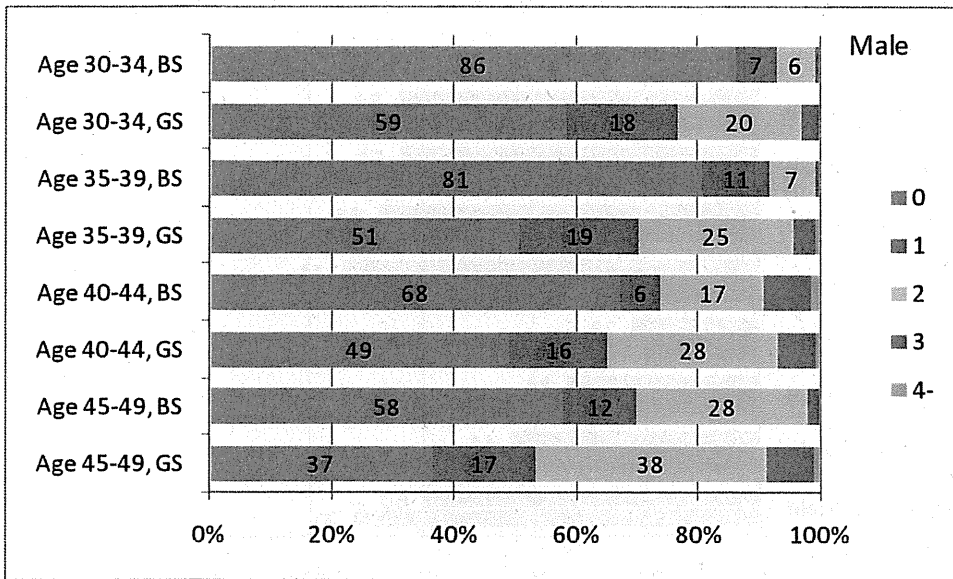
⑩本人の年収は、正規の方が非正規より圧倒的に多い。さらに、非正規の場合、本人の年収に違いはあまりない。他方、正規の場合、男性の本人年収は加齢に伴って増大するものの、女性のそれは年齢による違いがほとんどなく、加齢効果が観察されない。

⑪世帯年収は男性非正規グループの場合、年齢による違いがほとんどなく、正規・非正規格差は加齢とともに拡大する。一方、女性の場合、正規・非正規格差や GS/BS 格差は男性より小さい。女性 GS グループのうち専業主婦転身者の世帯収入は 40 歳代に関するかぎり相対的に高い。

図表 34 ①平均標準報酬月額

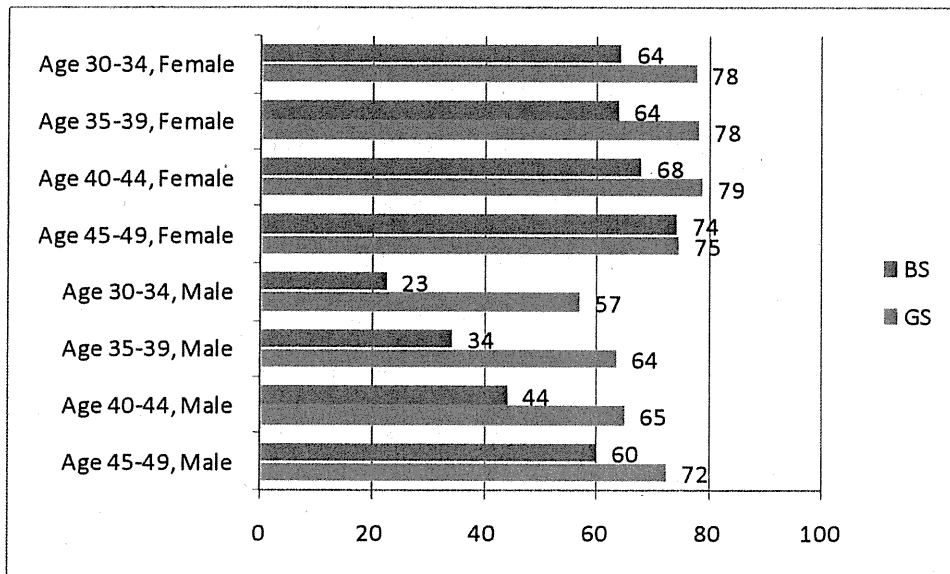


図表 35 ②子供人数の構成（男女別・生年別・スタート区分別）

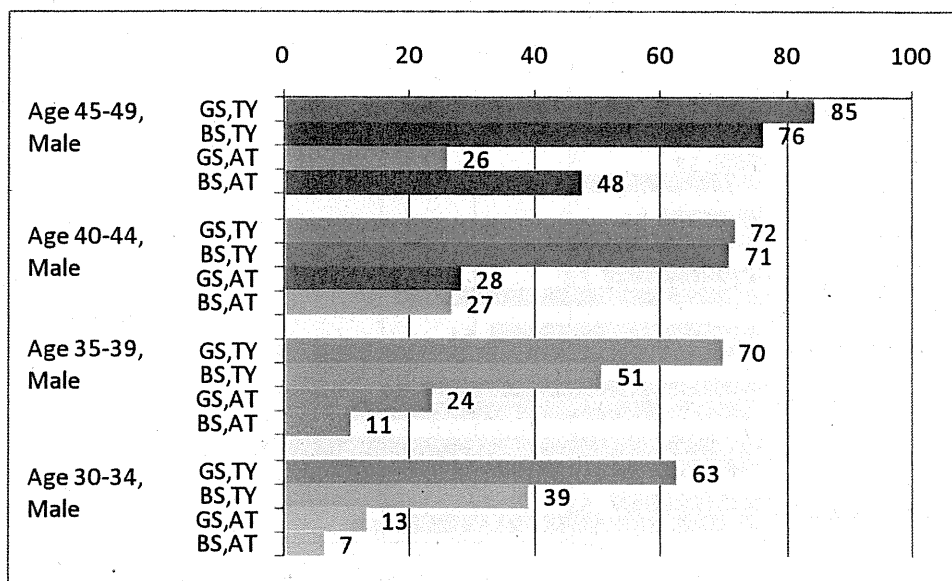


図表 36 ③婚姻状態

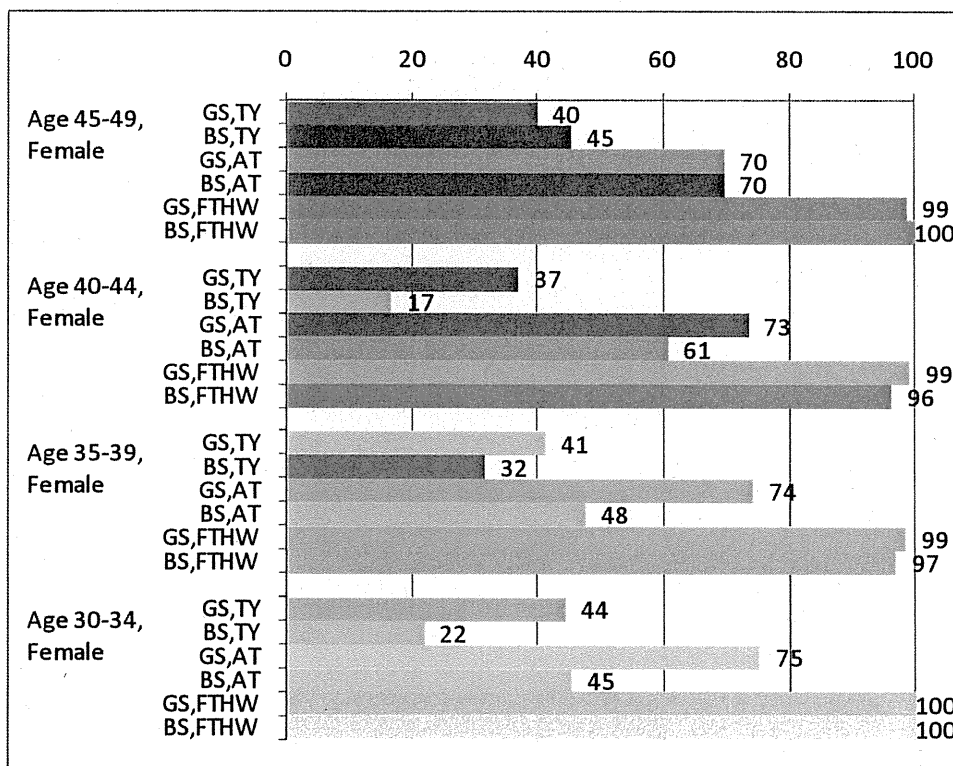
・結婚者の割合



・GS,BS 別×正規・非正規・家事育児別（現在の就業状態）の既婚率（男性）

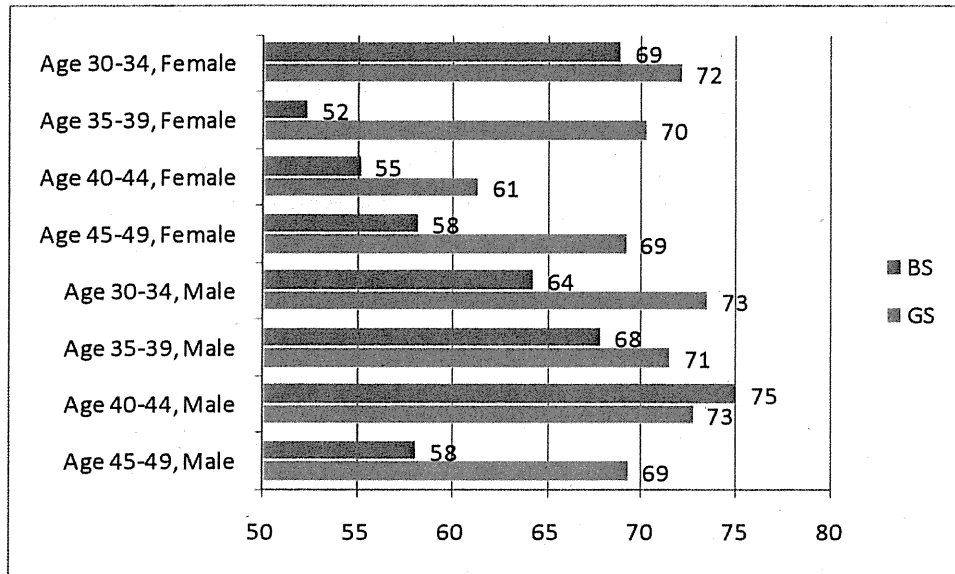


・GS,BS 別×正規・非正規・家事育児別（現在の就業状態）の既婚率（女性）

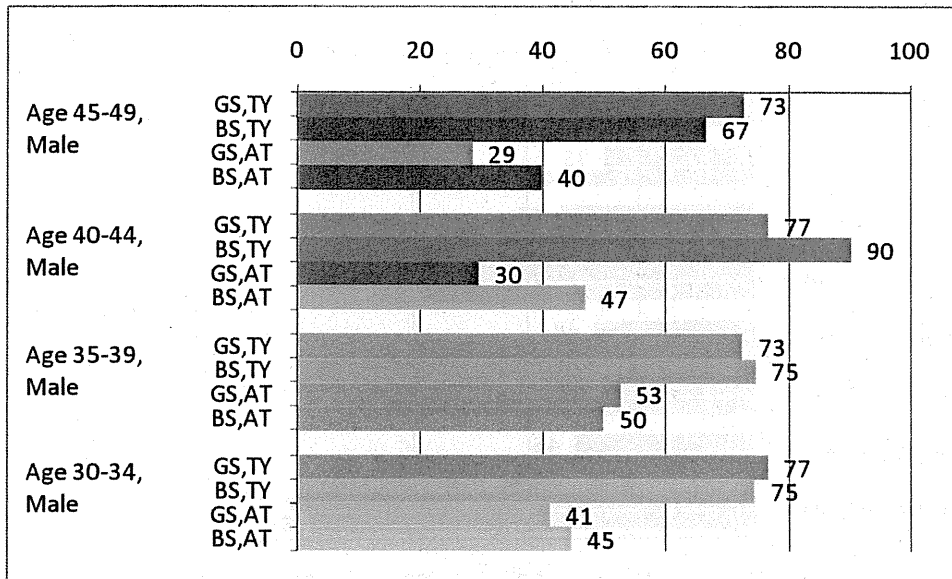


図表 37 ④2年以内の解雇可能性

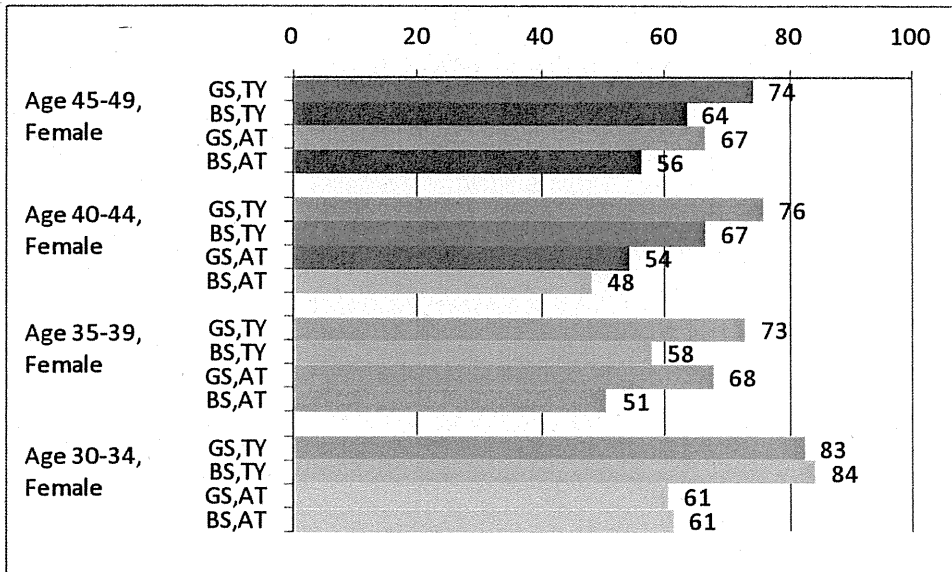
・可能性が「なし」



・GS,BS 別×正規・非正規別（現在の就業状態）の可能性「なし」（男性）

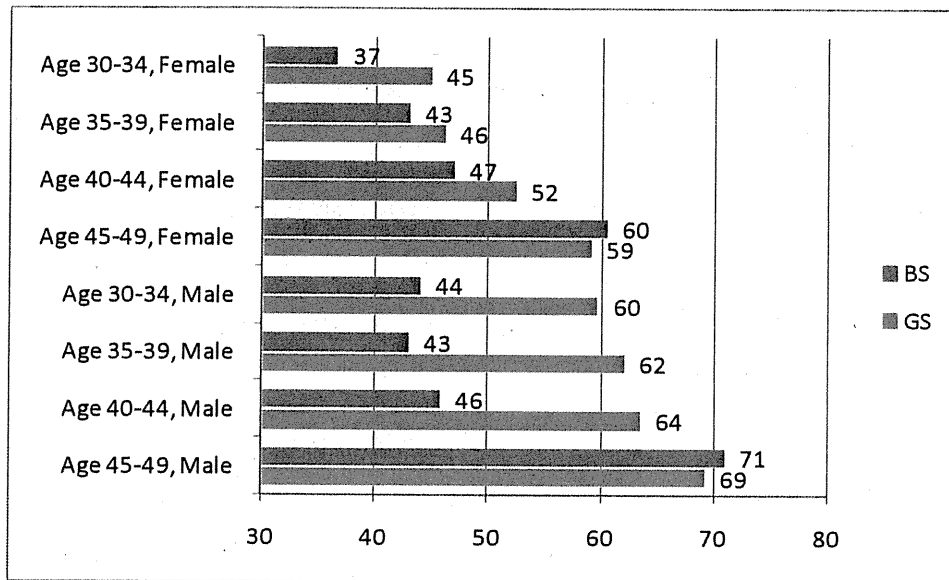


・GS,BS 別×正規・非正規別（現在の就業状態）の可能性「なし」（女性）

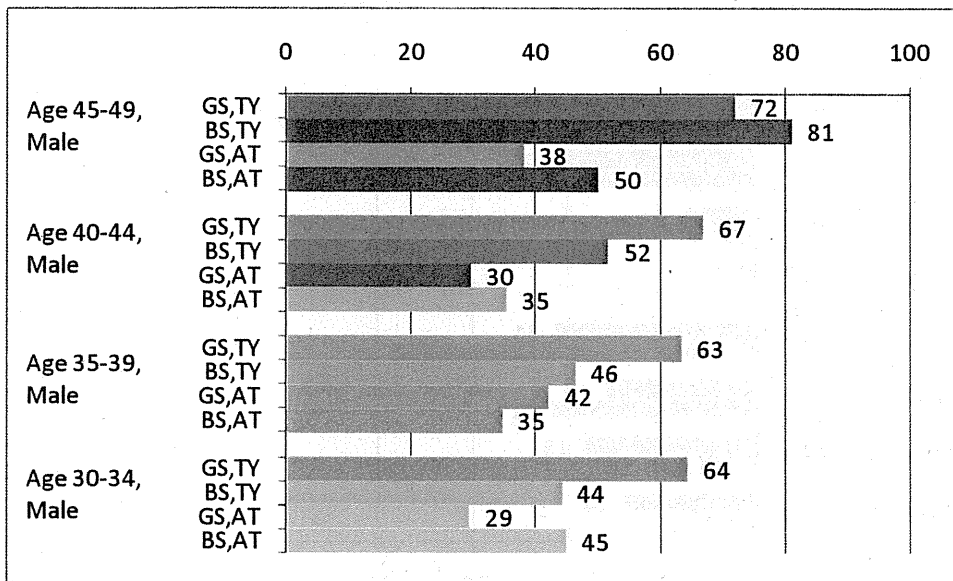


図表 38 ⑤2年以内の転職可能性

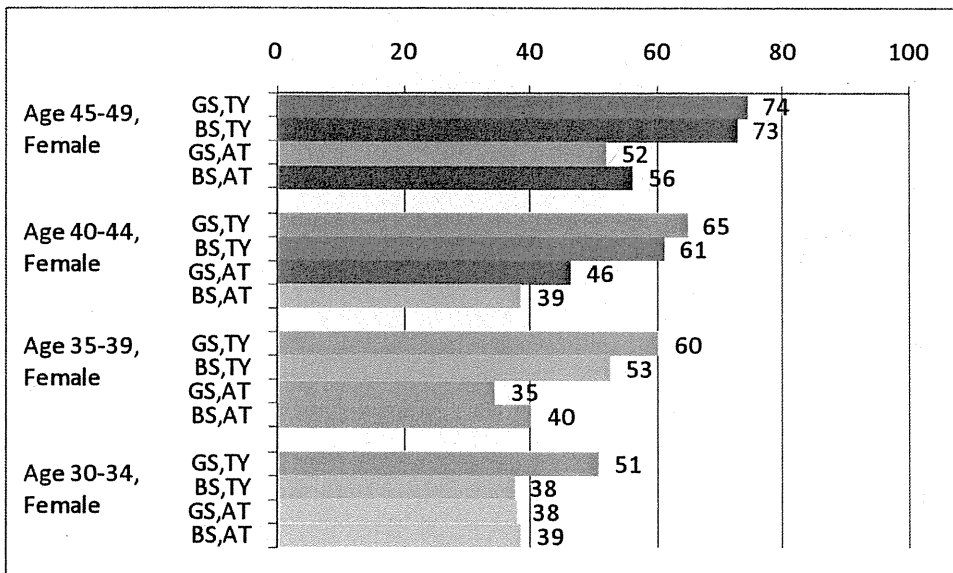
・可能性が「ない」



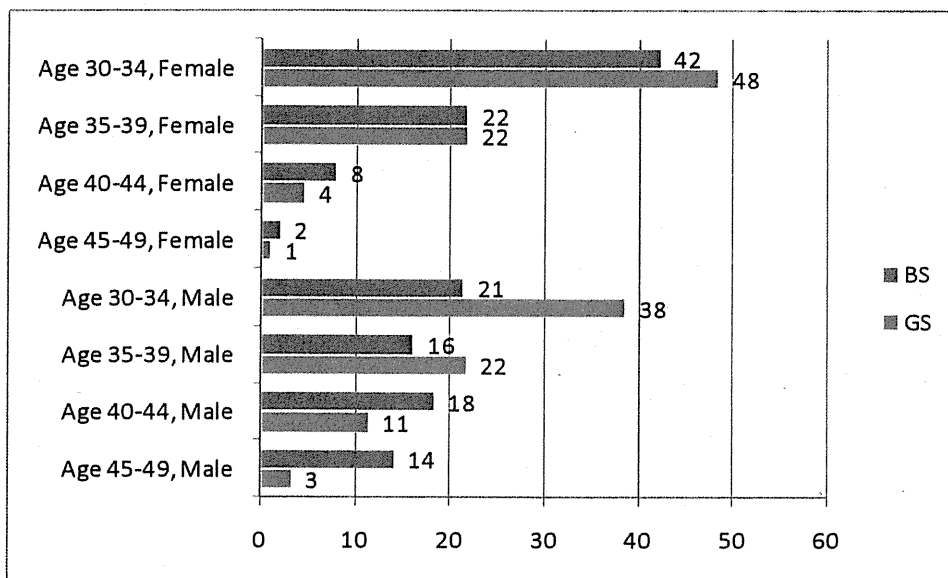
・GS,BS 別×正規・非正規別（現在の就業状態）の可能性「ない」（男性）



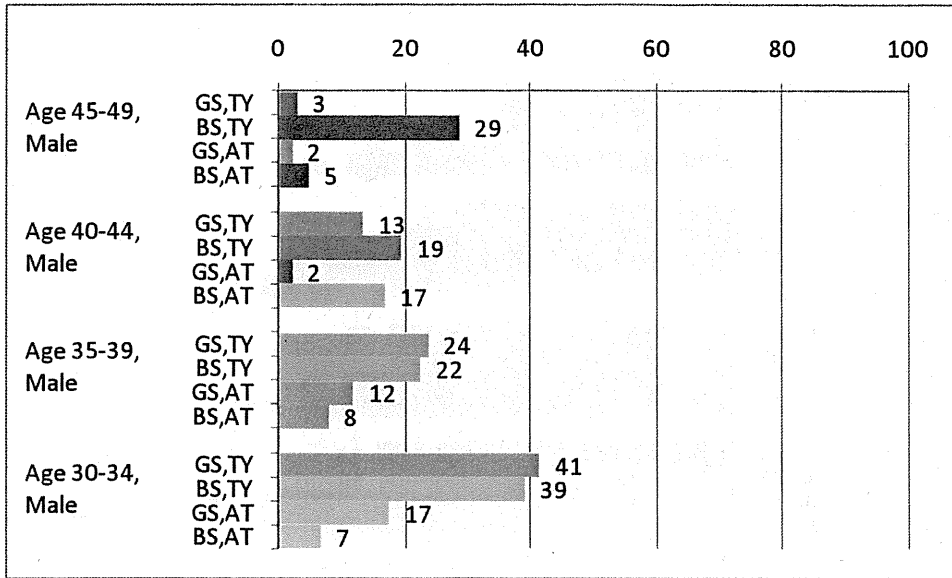
・GS,BS 別×正規・非正規別（現在の就業状態）の可能性「ない」（女性）



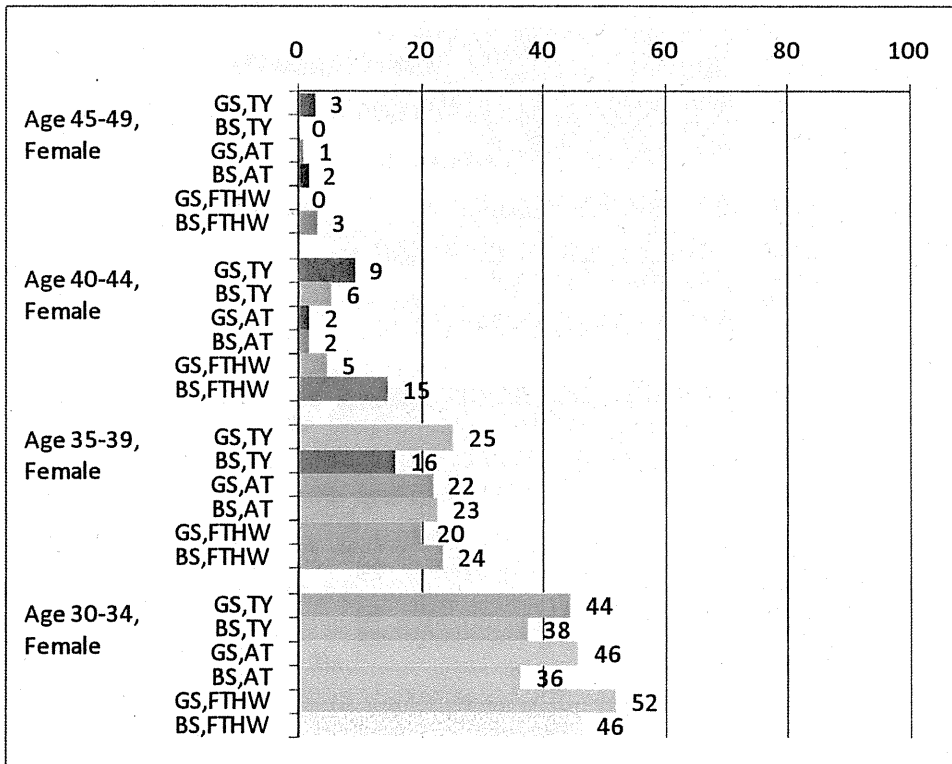
図表 39 ⑥子づくり計画
・「子づくり中」 + 「子づくり計画あり」



・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の「子づくり中」＋「子づくり計画あり」（男性）

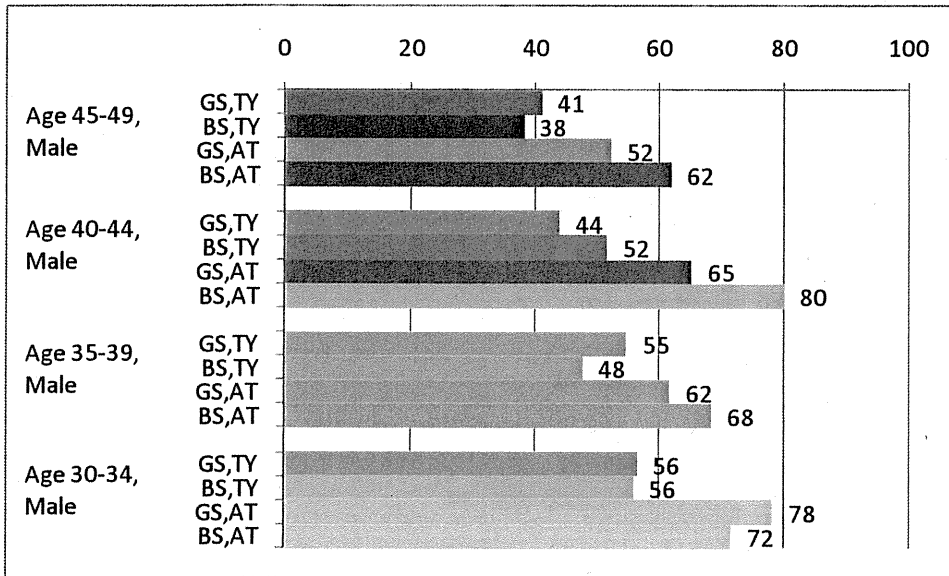


・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の「子づくり中」＋「子づくり計画あり」（女性）

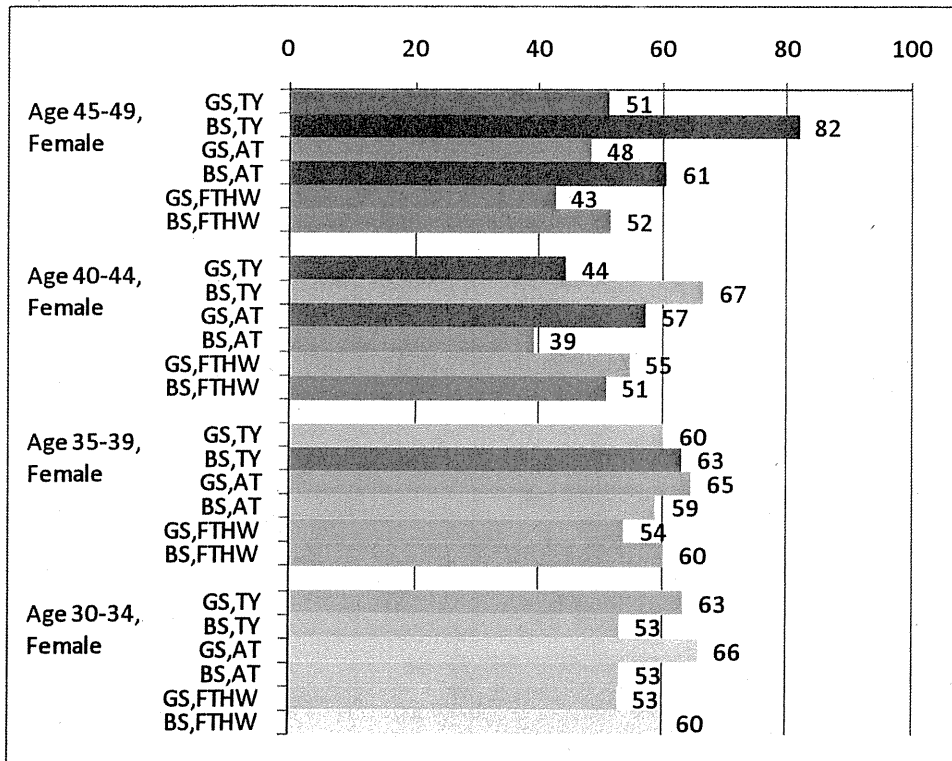


図表 40 ⑦親の世代より豊かになれるか

・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の「いいえ」（男性）

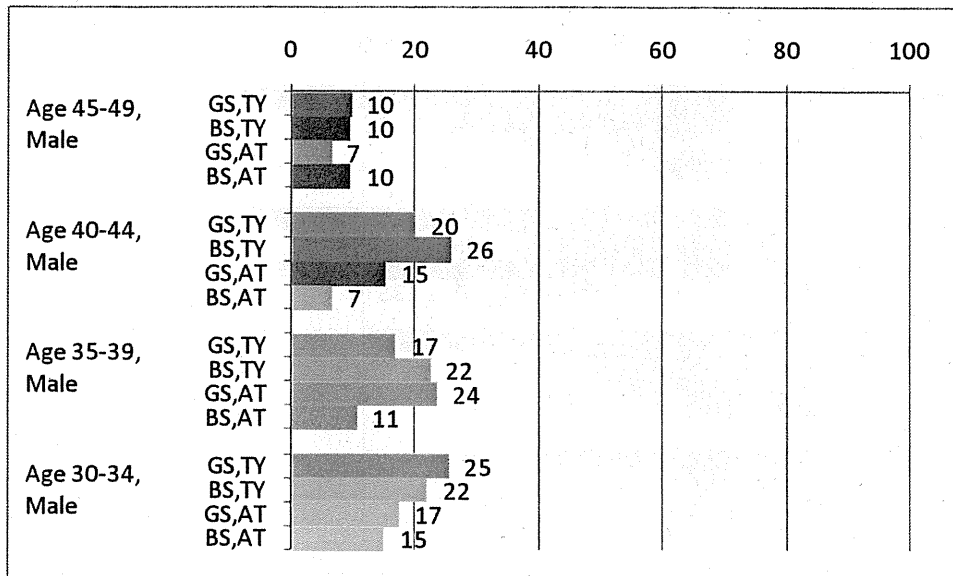


・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の「いいえ」（女性）

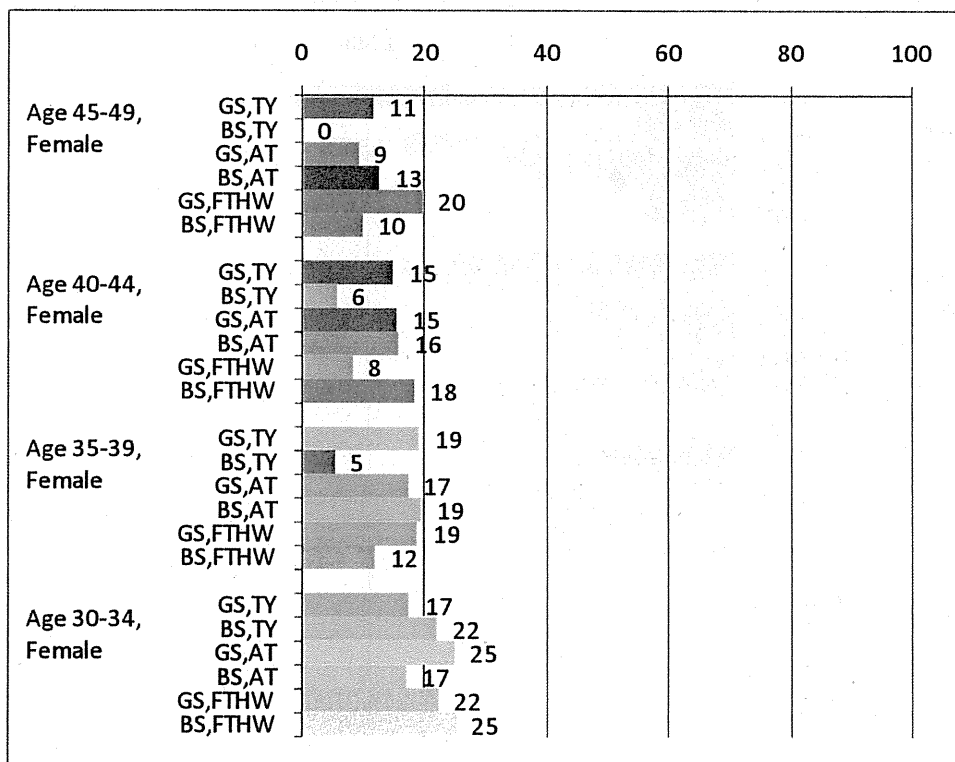


図表 41 ⑧10年後、生活水準向上するか

・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の「はい」（男性）

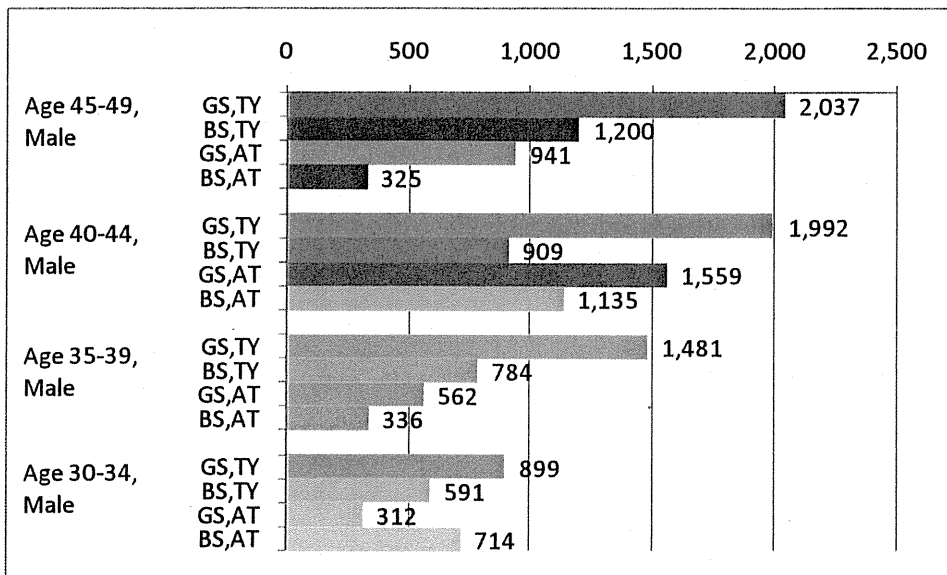


・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の「はい」（女性）

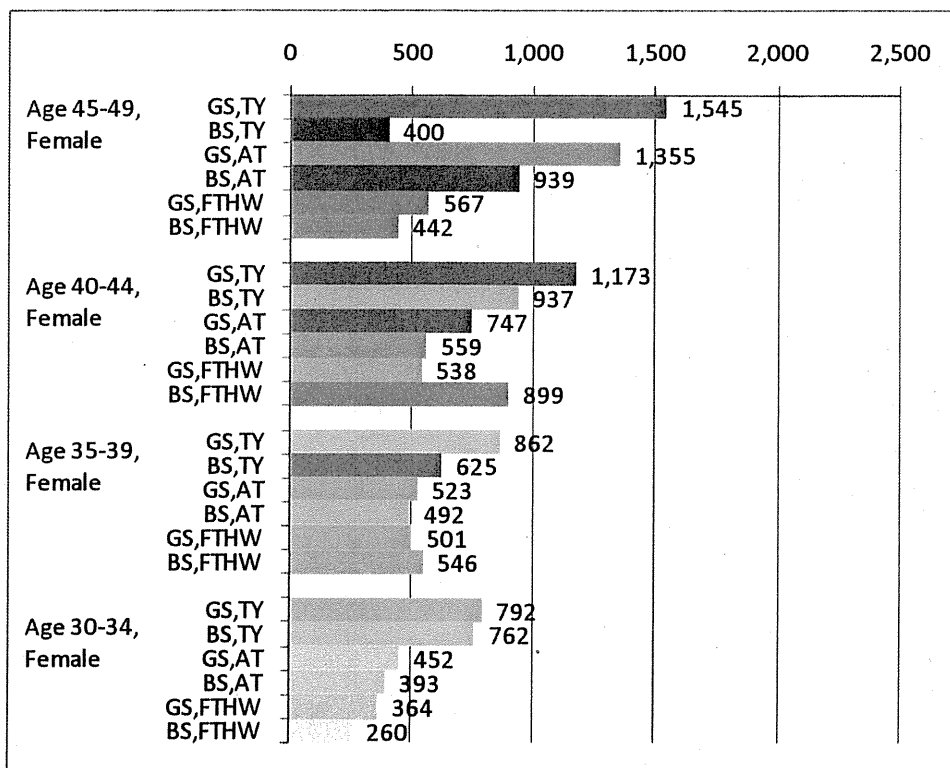


図表 42 ⑨本人の金融資産

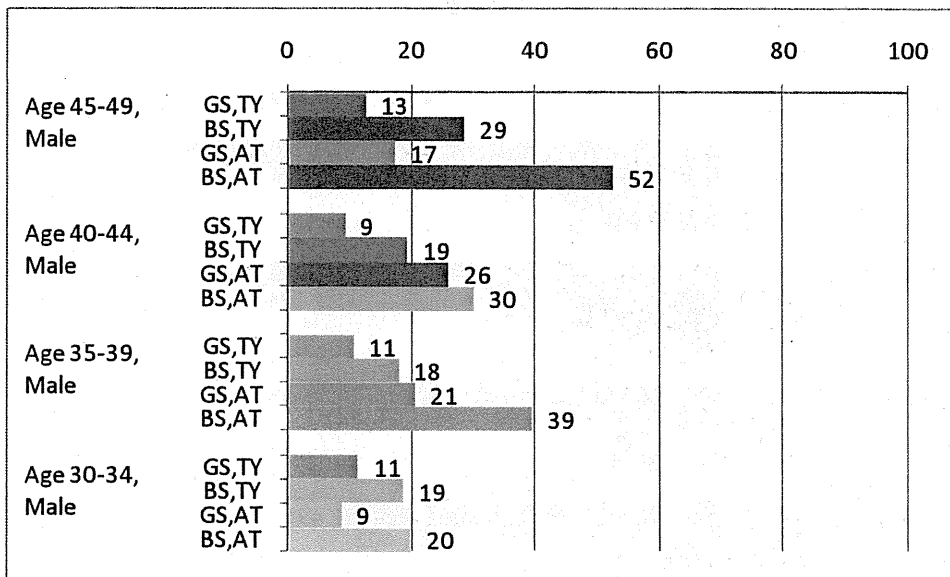
・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）（男性）



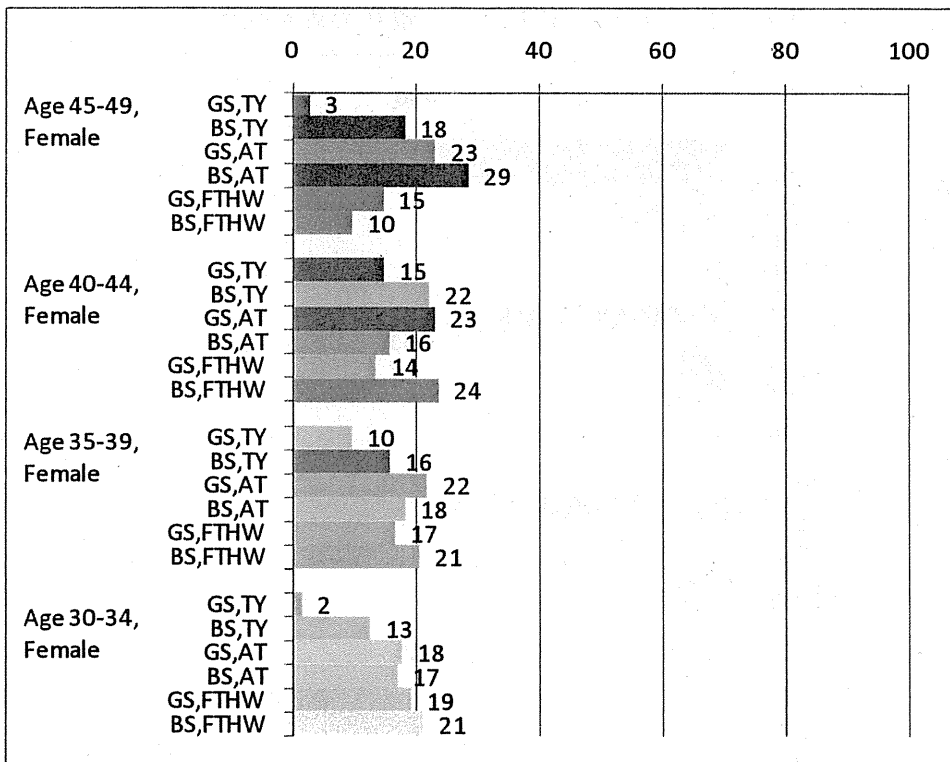
・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）（女性）



・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の資産ゼロ者の割合（男性）

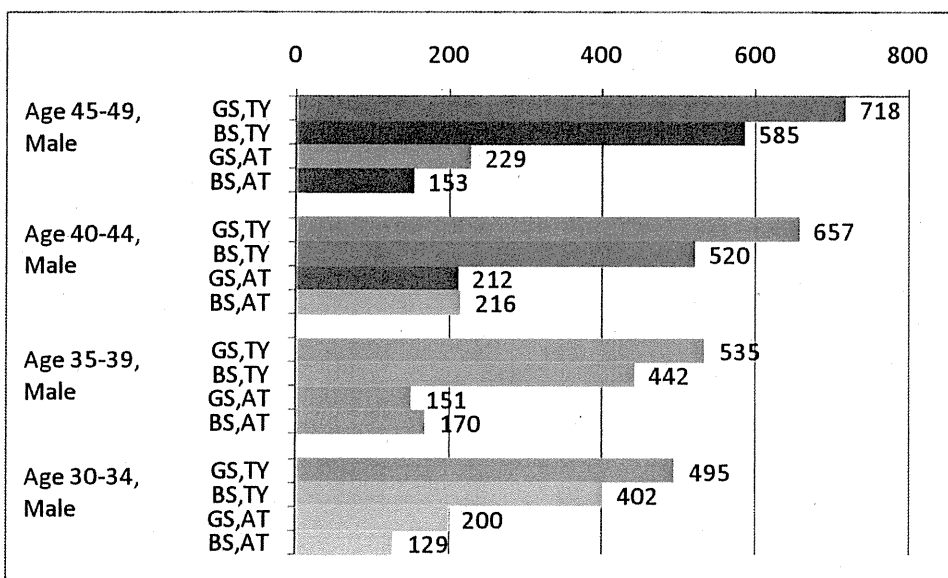


・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）の資産ゼロ者の割合（女性）

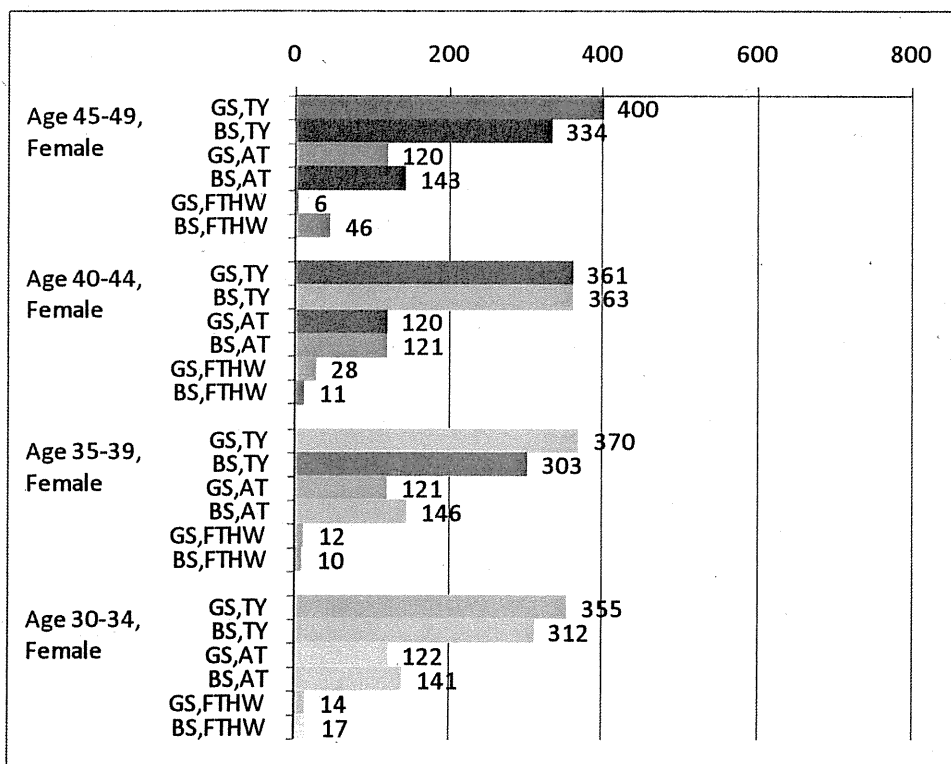


図表 43 ⑩本人収入

・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）（男性）

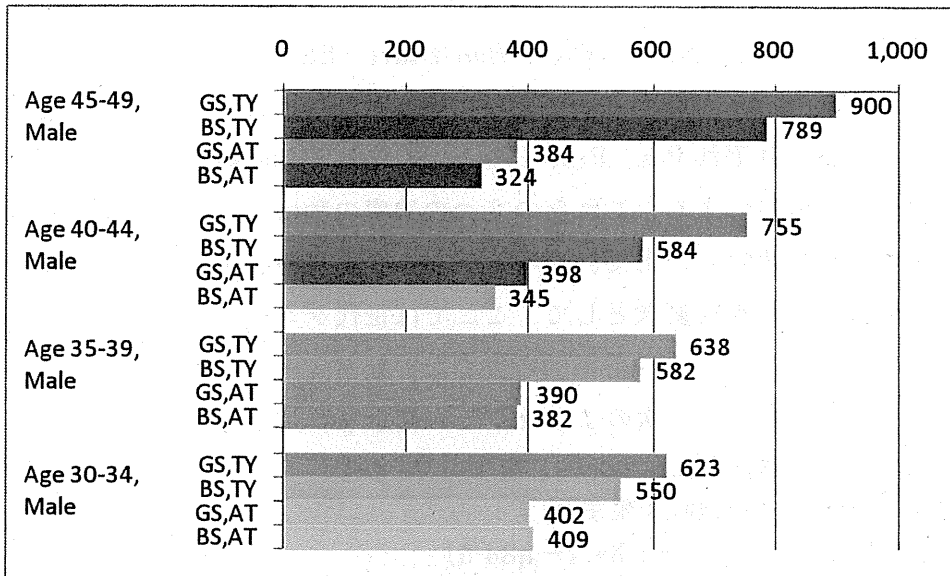


・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）（女性）

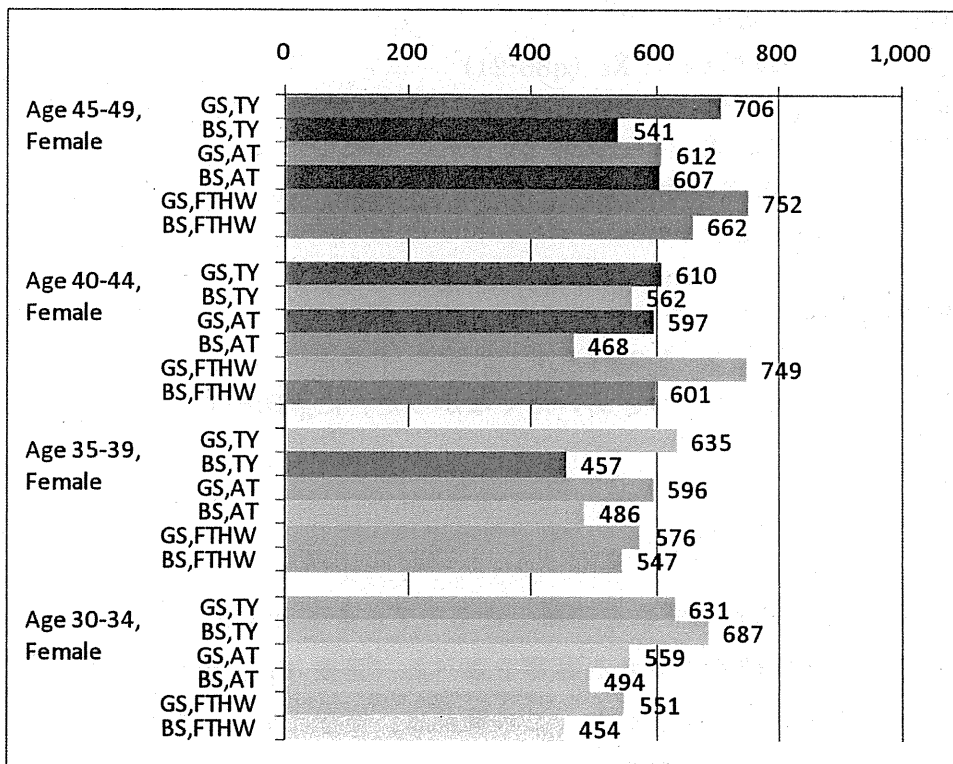


図表 44 ⑩世帯収入

・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）（男性）



・GS,BS 別×正規・非正規別・家事育児（現在の就業状態）（女性）



5. スタート時の違い (GS/BS) に関する暫定的な多項ロジットモデル分析

5.1 モデル

就業をスタートする際に、Good Start (GS)、Bad Start (BS)、それ以外のスタート (OT : 専業主婦、自由業・自営業、学生) という 3 つの互いに排他的な選択に直面していると仮定する。これらに対応する確率を、それぞれ P_{GS} 、 P_{BS} 、 P_{OT} とし、それぞれの確率がロジスティック分布に従っていると仮定する。仮定により、これらの 3 つの確率の和は 1 となる。個人のスタート形態に影響を与える独立変数を設定した上で、多項ロジット・モデルを用いて推計する。

スタート形態に影響を与える独立変数として、ここでは世代ダミー、母親が専業主婦か否かダミー、親が愛情を注いで育てたダミー、夫婦仲の良くない親ダミー、相談相手ダミー、学歴ダミー、中学時の友人ダミーを考慮して、次のようなダミー変数を作成した。

- 1) 世代ダミー : X_{21}, X_{22}, X_{23} ('66.4~, '71.4~, '76.4~)
基準 : 1961.11~1966.3 生まれ
- 2) 親は専業主婦か否かダミー : X_3 ($\leftarrow q84-5$)
基準 : 専業主婦でない
- 3) 親は愛情を注いで育てたダミー : X_5 ($\leftarrow q86-12$)
基準 : 「はい」 以外
- 4) 夫婦仲の良くない親ダミー : X_6 ($q86-21$)
基準 : 「はい」 以外
- 5) 相談相手ダミー : X_{81}, X_{82} ($\leftarrow q109-3$)
基準 : 「別居の家族や親族」に「かなり」「いづらか」「少し」いるのいずれかと回答したサンプル
- 6) 学歴ダミー : $X_{11}, X_{12}, \dots, X_{14}$ (4 区分) ($\leftarrow q20$)
基準 : 高卒 (中卒、その他を含む)
- 7) 中学時の友人ダミー : X_7 ($q88-6$)
基準 : 「他の人とは、つきあいたくなかった」に無印のサンプル

5.2 推計結果

5.2.1 男性

モデル推計に際しては、徐々に独立変数を追加した 3 モデルを推計することにより、世代効果、家庭環境、学歴効果などが BS 確率に与える影響を調べた (図表 45)。世代効果に関して、生まれ年が後年になるほど BS 確率が高くなった。この傾向は、学歴に示される個人の能力や、親の愛情あるいは両親の夫婦仲といった家庭環境を加味しても変わりがなかった。両親の夫婦仲が良くなかった場合に BS 確率は高くなり、母親が専業主婦であった場合、男性の BS 確率は低くなった。また、高学歴になるほど BS 確率は低くなり、中学時に他人とつきあいたくなかった場合、親族が現在一人もいない場合、それぞれ BS 確率が高くなった。

図表 45 多項ロジット・モデルの推計結果（男性）

変数	Log (P _{BS} /P _{GS})					
	モデル1		モデル2		モデル3	
定数項	-1.840	(-12.09)	-1.830	(-8.20)	-1.030	(-4.28)
世代ダミー						
1966.4~1971.3生まれ	0.315	(1.60)	0.332	(1.66)	0.381	(1.81)
1971.4~1976.3生まれ	0.726	(3.95)	0.768	(4.12)	0.827	(4.29)
1976.4~1981.10生まれ	1.360	(7.33)	1.380	(7.37)	1.570	(8.04)
母が専業主婦ダミー			-0.440	(-1.84)	-0.347	(-1.38)
親が愛情を注いで育てたダミー			-0.315	(-1.90)	-0.123	(-0.71)
夫婦仲の良いくない親ダミー			0.436	(2.89)	0.340	(2.15)
相談相手ダミー						
全くいない			0.411	(2.86)	0.402	(2.65)
該当者がいない			0.674	(3.59)	0.544	(2.64)
学歴ダミー						
専門学校卒					-0.679	(-3.44)
短大卒					-1.381	(-3.65)
大学学部卒					-1.544	(-10.5)
大学院修了					-2.248	(-7.53)
中学時に他人と付き合いたく なかったダミー					0.698	(2.38)
Log L	-1744.76		-1724.41		-1639.40	

注) モデル推計のうち BS 確率に関する推計結果。1,994 サンプル。カッコ内： t 値。

5.2.2 女性

女性に関する BS 確率の推計結果は、男性のそれに類似していた（図表 46）。ただし、母親が専業主婦であった場合には、男性とは逆に BS 確率が高くなった。母親が専業主婦である家庭に育った女性は、母親に倣い自らも専業主婦になろうと考えるのかも知れない。そのため正規として就業する意向が弱いのであろう。

図表 46 多項ロジット・モデルの推計結果（女性）

変数	Log (P _{BS} /P _{GS})					
	モデル1		モデル2		モデル3	
定数項	-0.740	(-6.24)	-0.530	(-2.70)	-0.161	(-0.76)
世代ダミー						
1966.4~1971.3生まれ	-0.286	(1.82)	-0.299	(-1.88)	-0.259	(-1.59)
1971.4~1976.3生まれ	0.196	(1.30)	0.207	(1.35)	0.345	(2.20)
1976.4~1981.10生まれ	0.438	(2.91)	0.474	(3.09)	0.716	(4.43)
母が専業主婦ダミー			0.450	(2.54)	0.537	(2.90)
親が愛情を注いで育てたダミー			-0.400	(-2.53)	-0.281	(-1.69)
夫婦仲の良いくない親ダミー			0.195	(1.46)	0.156	(1.15)
相談相手ダミー						
全くいない			0.062	(0.40)	0.016	(0.10)
該当者がいない			0.611	(3.12)	0.637	(3.17)
学歴ダミー						
専門学校卒					-0.303	(-1.77)
短大卒					-0.733	(-5.19)
大学学部卒					-1.136	(-8.21)
大学院修了					-1.313	(-2.72)
中学時に他人と付き合いたく なかったダミー					0.348	(0.88)
Log L	-1587.72		-1567.91		-1511.91	

注) モデル推計のうち BS 確率に関する推計結果。1,899 サンプル。カッコ内： t 値。

6. BS のキャリアアップ：青年期における正規化経験の有無に関する 2 者択一モデル分析

6.1 モデル

BS 組 (Bad Start) に関して、さらに BS-A (男性については 35 歳までに 1 年でも正規となった経歴がある人、女性については 23 歳までに 1 年でも正規となった経歴がある人) と BS-B (上記以外の人) に区分する。これらに対応する確率を、それぞれ P_{BS-A} 、 P_{BS-B} とし、それぞれの確率がロジスティック分布に従っていると仮定する。その上で BS 組の正規化経験の有無に影響を与える独立変数を設定し、2 者択一モデル (ロジット・モデル) を用いて推計する。

被説明変数については、BS-A 組を 1、BS-B 組を 0 とした。

また、男 35 歳以前、女 23 歳以前における正規化経験の有無に影響を与える独立変数として、ここでは、中学校の頃に友人がいたダミー、初職の業種ダミー、初職の職種ダミー、初職の雇用形態ダミー、就職に際しての公的な職業訓練の経験の有無ダミー、勤続 2 年以上の経験ダミー、小学校入学前の母親の就業状況ダミー、勤務年数を考慮して、次のようなダミー変数および実数変数を作成した。相対的に有意度が低い変数は除外することにより、次のような推計結果を得た。

- 1) q88_2 中学校の頃に友人がいた (基準：いなかった)
友人がいた →1
- 2) q11_2fa_6 初職の業種 (基準：製造業)
非製造業であった →1
- 3) q12_1fa_7 初職の職種 (基準：グレーカラー)
ホワイトカラー →1
ブルーカラー →1
- 4) q12_3fa_8 初職の雇用形態 (基準：1 年以上 5 年以下)
期限の定めなし →1
1 か月以上 1 年未満 →1
- 5) q12_4fa ほか 就職に際しての公的な職業訓練の経験 (基準：1 回もなし)
1 回以上あり →1
- 6) q10_1fa ほか 勤続 2 年以上の経験 (基準：1 回もなし)
1 回以上あり →1
- 7) q83_23 小学校入学前の母親の就業状況 (基準：仕事をしていた)
仕事をしていなかった →1
- 8) 勤務年数 (初職以降、男性 35 歳、女性 23 歳までの勤務年数)
勤務年数 →実数

6.2 推計結果

6.2.1 男性

キャリアアップの傾向を示す BS-A 確率に関して、初職の雇用形態において期限の定めがなかった場合、勤続 2 年以上が 1 回以上あった場合、35 歳までの勤務年数が長かった場合、中学校の